

# スエニヨク

版 コ ス シ

高 新 = ス No 387  
新 後 = ス No. 215

No. 552

39. 8. 14

## 一、みちのくの夏まつり

— 秋 田

はなやかに夜空を色どるみちのくの夏祭り。  
 ここ、秋田県湯沢市の七夕まつりは、美しい浮世絵、武者絵などの「絵とろうろ」として知られています。  
 一方、こちらは、東北三大祭りの一つとして全国にその名を知られている竿灯まつり。夜とともに百本あまりの竿灯が秋田市内にくりだし、印ばんでんにはちまき姿の若衆たちが、おはやしに歩調を合せて竿灯の妙技を披露。  
 こうして、この竿灯まつりにくりだした十万の見物客は、残り少ないみちのくの夏の夜を楽しんでいました。

134

## 一、水に泣く東京

— 東 京

ここ数年、夏になるときまつて登場する東京の水ガメ、小河内、多摩川などの枯渇騒動。「災害出動」の看板をつけた自衛隊も大動員する。第四次給水制限というのつびきならぬ状態に陥っています。  
 オリソピックを間近に控えてハッスルしようと思懸けている知事さんに都民の怒りはもはや怒声から諦念といったところ。  
 オリソピックも大事だがそれよりも都民の水が大切なことをお忘れなのかしら。いち早く都民の面倒を見て欲しいものです。

141

アイモ風土記

## 一、蚕のふるさと

— 伊 那

長野県伊那、〃私や伊那の谷、谷間の娘、蚕怖がる子は産まぬ〃とうたわれ、昔から繭の産地として名高い所です。  
 高遠町台部落に主婦ばかり五人の仲間が作った、その名も仲よし組合という。養蚕組合があります、最近はこの付近も勤めに出る人がめっきり増え農業はすべて主婦の背にのしかかっています。共同作業で労働を軽くしようというもの。  
 主婦が中心の養蚕も忙しい時だけは別で、サラリーマンになってしまったご主人は日曜日には日当千円でも奥さん方に雇われることになりました。昔とったきねずか汗をふきふき鎌をふるいます。  
 こうして育ちゆく伊那の協業養蚕は問題の多いこの頃の農村に新しい光を投げかけているようです。

347

622 人